

共配網の構想実現へ

イーサポートリンク

荷物集約し積載率向上

青果物など生鮮品の生

ス提供を目指す。

産から物流、販売まで流

構想では、参画する運

通効率化を支援する各種

送会社間で荷量や輸送ル

システムを提供するイー

ートなどの情報をデジタ

サポートリンク（本社・

ルデータで共有し、物流

東京、堀内信介会長）

の効率化を図る。荷物の

は、25年以上にわたり輸

集約による積載率向上に

入バナナのサプライチェ

に加え、中継輸送も活用す

る。

ウハウを生かし、生鮮品

各地域の運送会社が連

の共同配送ネットワーク

携し、各社のネットワー

構想を進めている。早け

クを結ぶことで長距離運

れば2027年のサービ

行を減らし、運送会社が

適正な利益を確保

しつつ継続的に輸

「法令を順守しな

がら持続的に輸送

を続けられる環境

をつくる必要があ

る」と石井部長

送できる環境づくりにつ

なげる。

現在、運送会社や荷主

と意見交換し、構想の具

体化とネットワークづく

りを進めている。

同社は輸入青果物のサ

プライチェーン全体を管

理する「イーサポートリ

ンクシステム」や、生鮮

流通を支援する「生鮮M

Dシステム」を展開。荷

主、生鮮品加工会社、倉

庫・運送会社など流通に

関わるさまざまな企業を

データでつなぎ、生鮮流

通の効率化を支援してき

た。

青果物の産地は季節に

よって大きく変わり、天

候や自然災害などの影響

によっても収穫量は変動

するため、生産地が固定

された工業製品などと比

べ、安定した輸送体制の

維持は容易ではない。

厳しさ増す消

費地への輸送

全国の産地から卸売市

場や消費地への配送は、

地域の中小規模の運送会

社が担うケースも多い。

人口や農業従事者数の減

少に伴い、荷量の減少傾

向が続く中、運送会社を

取り巻く環境は厳しさを

増している。

石井崇博営業推進本部

営業2部長は「運賃・料

金や配送効率などを改善

できず、生鮮品輸送の事

業継続に苦慮する運送会

社も見られる。法令を順

守しながら持続的に輸送

を続けられる環境をつく

る必要がある」と強調。

運送会社同士が横につ

ながり輸送力を補い合う

ことが重要になるとした

上で「生鮮品輸送の持続

可能性向上に貢献すると

ともに、生産者から生活

者まで商品を安定して届

けられる仕組みを支え、

『全ては生産者と生活者

のために』という当社理

念を実現したい」と話

す。

（高橋 朋宏）